

●イビキを止める新療法とは?

質問

イビキを止められる新療法があると聞きましたが、どのようなものでしょうか。(北海道・飯島正恵)

男女を問わず、イビキの悩みは深刻です。同室にいる人の安眠を妨げる原因となるばかりか、ひどい場合は自分のイビキで目が覚めて、不眠に陥る人もいます。

イビキは、扁桃腺のはれや肥満、加齢(年を取ること)による呼吸筋の衰えなどでも起こりますが、その最大原因といえるのは鼻づまりです。

鼻腔(鼻からのどへつながる通路)の内部には、下甲介という肉の塊が左右に一カ所ずつあります。この下甲介が、アレルギー反応で起こる鼻炎などによって盛り上がり、鼻腔が狭くなるために鼻づまりが起こります。

なぜ、鼻づまりがイビキの原因となるか説明しましょう。もともと、どんな人でも睡眠時には鼻呼吸をしようとします。鼻づまりで鼻腔が狭まっていると、十分な空気を取り込もうとして強く息を吸うため、狭い鼻腔を空気が通るときに、イビキが起こるのです。

つまり、鼻腔を広くして鼻づまりを解消すれば、イビキは出にくくなるはず。そこで最近、鼻

腔を広げてイビキを解消する新しい手術法が注目されています。それが、ラジオ波による下甲介切除術です。

ラジオ波とは、電磁波の一種で周波数の高いものを指し、一カ所に一定時間当てると発熱する性質があります。医療現場ではガン治療などにも用いられています。

下甲介切除術では、鼻の穴から差し込んだ針を下甲介に刺し、左右の鼻腔で約二分ずつ、ラジオ波を流します。すると、ラジオ波によって、盛り上がっていた下甲介が縮み、鼻腔が広がることでイビキの症状が軽減するのです。

下甲介切除術の前には、あらかじめ三〇分ほどかけて麻酔を行います。具体的には、鼻に麻酔入りのガーゼを入れて、ラジオ波を流す針を刺す位置にも少量の麻酔薬を注射します。そのため痛みは少なく、出血の心配もほとんどありません。

これまでの下甲介切除術は、局所麻酔や全身麻酔のもとで行われていたため、一週間程度の入院が必要でした。しかし、ラジオ波による下甲介切除術は一時間程度で終わるため、日帰りを受けられます。

下甲介切除術は健康保険が適用され、費用は三割負担で約六〇〇

〇円です(診療費、検査費は別に必要)。単なるイビキだけでなく、鼻づまりのため従来の治療がなかなかできなかった睡眠時無呼吸症候群の患者さんも対象となります(鼻の骨が極端に変形している人や、ペースメーカーの使用者は下甲介切除術を受けられない場合があります)。

くわしくは、お近くの病医院の耳鼻咽喉科に問い合わせてください。

(慶友銀座クリニック院長

おおばとしりこ
大場俊彦)